

授業の復習の仕方

皆さん、こんにちは。Z会進路指導担当の冨崎です。

徐々に蒸し暑くなってきましたね。早くも1学期の半分か過ぎましたが、学年があがり、自身の成長を感じる機会はあるでしょうか。ちなみに私はこの年で今さらですが、AI分析のついた将棋アプリのおかげで、昔の自分より少し読みが深くなっているのでは、と感じます。

さて、今回のテーマは「**授業の復習の仕方**」についてです。「復習が大事」とは学校・塾問わず、頻繁に言われるものですが、それでは良い復習とはどういうものでしょう。

おそらく誰もが知っている復習の目的は、「間違えた箇所を見直して、次回は解けるようにする」というものでしょう。

よってその場合、復習の仕方は、

STEP1: テキスト・ノートを見直して、正しい知識をインプットする

STEP2: 答えを見ずに該当箇所の問題をもう一度解きなおす

というものになります。

高1生以前から丁寧に復習をしている方だと、「翌日の復習だけだと、解き方や答えを覚えてしまっていてできてしまうから、翌日と1週間後に2回解きなおしをしておこう」となるかもしれません。

確かにこれらの復習の仕方は基本中の基本であり、知識の定着という意味では重要です。しかし、東大京大医学部をはじめとするトッ

プレベルの大学に合格する生徒のステージはもう一段階上にあります。

それは問題を解けただけで良しとせず、復習をとおして自分自身の知識や理解度をさらに深掘りしていくことです。

ここで東京大学のアドミッションポリシーを紹介しましょう。

・・・入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

たとえば英語の長文問題を解いた場合、テキストにある設問は解けたとしても、テキスト文中でうまく読み取れなかった内容があるかもしれません。また和訳問題で、概ね正解だったとしても、もっと良い和訳文が作れたかもしれません。数学であれば、日本語での説明が不十分だったかもしれませんし、もっと早く解くことができる別解があったかもしれません。

そしてどの教科にも共通して言えることですが、自分の言葉で他人に説明できるくらいに理解できているかどうかです。

繰り返しになりますが、過去の東大合格者はこの水準で日々の学習に取り組んでいます。またZ会の授業の講義についても、表面的な

理解ではなく、より根本的な理解をさせるための高度なレベルとなっています。

高1生以下の復習では、まずは知識の定着を図るというのが、主な目的でしたが、高2生からは、正解不正解を問わず、本当に自分は全て理解しているのか、ということを経験しながら、進めていくと良いでしょう。

ふとしたとき、「自分は以前よりももっと深く物事を考えられるようになっていく」と気づくはずで、では、本日はこの辺で。